

## 令和8年度 音楽学科 スクーリング持参物・準備物

※いずれの科目も筆記用具、学習指導書、テキスト（Web教材を除く）、は必ず持参すること。

※持参物・準備物について追加・変更等連絡事項があれば、随時学習支援システムでお知らせします。

○注 2023年度以降、音楽学科に1年次入学した学生及び2024年度より1年次入学した学生と編入学した学生対象の科目です。

科目名		持参物
音楽制作特論		・筆記用具
情報音楽論		・テキスト
西洋音楽の歴史と理論		・テキスト
日本音楽の歴史と理論		・テキスト ・5線紙のノート
情報音楽基礎演習		・通信教育システムのログインユーザー名およびパスワードのメモ ・パソコンの音声を聞くためのヘッドホンまたはイヤホン（ステレオミニプラグ・Φ3.5mm） ・授業で制作したデータを持ち帰りたい人はUSBメモリなど（任意）
和声法1		・5線紙のノート
ポピュラー和声法 1・2 ○注 (ポピュラー和声法2の履修はポピュラー和声法1の単位を取得した学生対象です。)		筆記用具と五線紙 (Ipad とペンシルなどでも可)
和声法入門 ○注		・5線紙のノート ・楽典の教科書 ・今までの楽典の資料 (あればよい)
和声法基礎 ○注		未定(詳細が決まり次第、受講者にお知らせします。)
ミュージック・ソフトウェア・オペレーション1 ○注 ミュージック・ソフトウェア・オペレーション2の持参物は右の欄のb.に記載している内容と同じです。 (※ミュージック・ソフトウェア・オペレーション2の履修は1の単位を取得した学生対象です。)		a. スコア USB メモリ b. USB メモリ (32GB 以上推奨 Mac/Win 両方対応の製品 ) ヘッドホン 但し、教室にもあります。 受講される方の音の好みや感染とか気にされる方もいらっしゃるかも？しれませんので、ご自身のヘッドホン・イヤホンを持参で受講可(イヤホンを使用される場合、ステレオ 標準プラグ変換アダプター持参必須、ヘッドホンはステレオ標準プラグの製品)  こういう変換プラグです。ネット通販・家電量販店で購入できます。 <a href="https://www.soundhouse.co.jp/products/detail/item/109780/">https://www.soundhouse.co.jp/products/detail/item/109780/</a>
ギター奏法 1・2 ○注		テキスト:ビギナーズ・ガイドはじめよう！アコギでジャズ[模範演奏動画&CD付]/中村たかし編著(丸善書店購入不可) ※はじめてのアコースティック・ジャズ・ギター入門[模範演奏 CD 付]/中村たかし編著を購入済みの方は再度購入の必要はございません。
作品制作 1	共通	・報告課題（制作にあたっての相談等のため） ・個人的に制作した作品等（可能な方）
	クラシック	・5線紙のノート



音楽データベース 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>ヘッドホンまたはイヤホン</u> (3.5 mmステレオミニ標準プラグのもの)</li> <li>・ <u>USB フラッシュメモリ等のストレージ</u> (記録容量をよく確認すること: 1GB 以上推奨)</li> <li>・ 事務室から通知された <u>Web 教材へログインするための初期パスワード</u></li> </ul> <p>※各自で変更した後のログイン・パスワードでは授業で使用するシステムにはログインできません。</p> <p>必ず初期パスワードを用意してください)</p> <p>○音楽データベースでは、随時、ハンディレコーダーによる録音や楽器等の写真撮影を行います。</p> <p>教室の機材は数が限られますので、ハンディレコーダー (メモリーレコーダー、ボイスレコーダー等)、 デジタルカメラ (コンパクトで十分) を普段使用している学生はスクーリング時に持参してください。</p> <p>(USB カードリーダーもあるとなお良い)</p> <p>※携帯電話、スマートフォンのカメラ機能での撮影は、自分で撮影画質の設定変更やスマートフォンから PC に写真データを移すことができることを前提として可とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>持参可能な楽器</u> スクーリングを受講するにあたり研究対象としたい楽器 (音具) を選考し、教室に持参すること。 (楽器音の収録、X線透過図の撮影に備え、できれば自分で演奏可能な楽器が望ましい。簡易楽器でも可。金属はX線を通さないので金管楽器は要注意。 例) 声楽の経験がある ⇒ 1-1 は歌を録音、1-2 はリコーダーを撮影 例) ホルンの経験がある ⇒ 1-1 はホルンを録音、1-2 はプラ製の消音器やケースを撮影 例) 特に専門楽器はない ⇒ 調査・研究してみたい興味のある楽器や音具を録音、撮影</li> </ul>	
作品制作 2	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告課題 (制作にあたっての相談等のため)</li> <li>・ 個人的に制作した作品等 (可能な方)</li> </ul>
	クラシック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5線紙のノート</li> <li>・ <u>Web 教材</u>に目を通したうえで、曲を付けてみたい詩を必ず複数選び、持参すること (できれば簡素なものを推奨)</li> </ul>

	コンピュータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■必ず持参するもの</li> <li>・バックアップ用記録メディア（USB メモリースティックや USB 対応のポータブルのハードディスク、空の CD-R の内1つ。DVD-R やフロッピーディスクは不可。）</li> <li>■もしあれば持参するとよいもの</li> </ul> <p>スクーリングは Mac 環境で Avid 社の Protools を使用します。準備できる台数にも限りがあり、受講者が多い場合は、グループでの使用となることがあります。授業中の説明は上記の環境で行ないますが、自宅で使用している使い慣れた環境で作業を行ないたい場合、DAW(Protools 以外でもかまいません)がインストールされたノートパソコンやオーディオ・インターフェース、ヘッドフォン（イヤホン）など小型で持参可能であれば、それで受講されても結構です。</p> <p>またスクーリングでは録音実習があります。学校でも機材の貸出しはできますが、日頃使い慣れている（あるいはこれから使っていきたい）ポータブルな録音機（IC レコーダー、ハンディーレコーダーなど）をお持ちの方は、マイクやヘッドフォン（イヤホン）、記録メディアと共に御持参されても結構です。</p>
	ポピュラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 線紙のノート</li> </ul>
音楽データベース 2		<p>枠の部分 音楽データベース 1 と同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>各自のデータベース（最終課題）を作成するための資料類</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第 1 課題」で、各自が取り上げた楽器に関する文献、画像、録音、録画資料、その他諸資料</li> <li>* 「第 2 課題」で、写真撮影、録音、録画等を行った者は、その記録メディアおよび、取材資料</li> </ul> </li> <li>・ <u>「第 1 および第 2 課題」が提出済の場合は、そのレポートのデータファイル</u></li> </ul> <p>※スクーリング受講前に、学習指導書の課題「第 1.2.課題」を提出済であることが望ましい。 ただし、「第 2 課題」は鑑賞対象となる行事の催される時期が、スクーリング開講時よりも後になる場合は、課題提出がスクーリング受講後になっても良い。</p>
作品制作 3	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告課題（制作にあたっての相談等のため）</li> <li>・ 個人的に制作した作品等（可能な方）</li> </ul>
	クラシック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 線紙のノート（クラシック音楽編）</li> </ul>
	コンピュータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品制作 2 と同じ</li> </ul>
	ポピュラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 線紙のノート</li> <li>・ 3.5mm ステレオミニ標準プラグのヘッドフォンまたはイヤホン（東京のみ）</li> </ul>
卒業作品・発表	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告課題（制作にあたっての相談等のため）</li> <li>・ 個人的に制作した作品等（可能な方）</li> </ul>
	クラシック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 線紙のノート</li> <li>・ 作曲の動機、作品の形式、構成、楽器編成などレジュメを用意すること。</li> </ul>

<p>コンピュータ</p>	<p>■必ず持参するもの</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バックアップ用記録メディアとして <b>USB</b> メモリースティック (2 ギガバイト程度で十分です)</li> <li>2. 作品の記録メディアとして、空の <b>CD-R</b> を 4 枚程度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他自己の判断で持参するもの</li> </ul> </li> </ol> <p>1. 素材の録音は基本的に大学の機材を用いて授業内で行ないますが、自宅で収録した音素材も持参してもよいでしょう。録音機も使いなれたものがあれば持参していただいてもよいでしょう (レコーダー、マイクロフォンなど)。</p> <p>※スクリーニングにおいて作品の制作は、<b>Mac</b> 環境で <b>Avid</b> 社の <b>ProTools</b> を用いて行いますが、自宅で使用している使い慣れた環境で作業を行ないたい場合、<b>DAW(Protools</b> 以外でもかまいません)がインストールされたノートパソコンやオーディオ・インターフェース、ヘッドフォン (イヤホン) など小型で持参可能であれば、それで受講されても結構です。</p>
<p>ポピュラー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 線紙のノート</li> <li>・ <b>3.5mm</b> ステレオミニ標準プラグのヘッドフォンまたはイヤホン</li> <li>・ 「2」の受講者は、制作中のスコアと、<b>MIDI</b> ファイルを <b>CD-R</b> または <b>USB</b> メモリースティックに保存して持参してください。普段使用しているシーケンサーがインストールされたノート PC が持参出来る方は持参してください。また、ともに、空の <b>CD-R</b> を数枚持参してください。</li> </ul>

